 沖縄県
令和6年度 若年妊産婦支援促進事業

現状調査報告

- 当事者アンケート
- 当事者ヒアリング
- 想定支援者アンケート

zeroplace合同会社



代表社員/助産師 島袋 綾香

当事者アンケート報告



対象者と実施方法

アンケート名：若いママの“今”を調査するアンケート

調査期間：2024年7月1日～10月20日

対象者：10代で妊娠・出産を経験した方

収集方法：県内全保育園、子育て支援センター、若年妊産婦の居場所に郵送にてチラシ・カードを配布し、掲載を依頼した(約1200部)

有効回答数：32件(回答92件のうち)

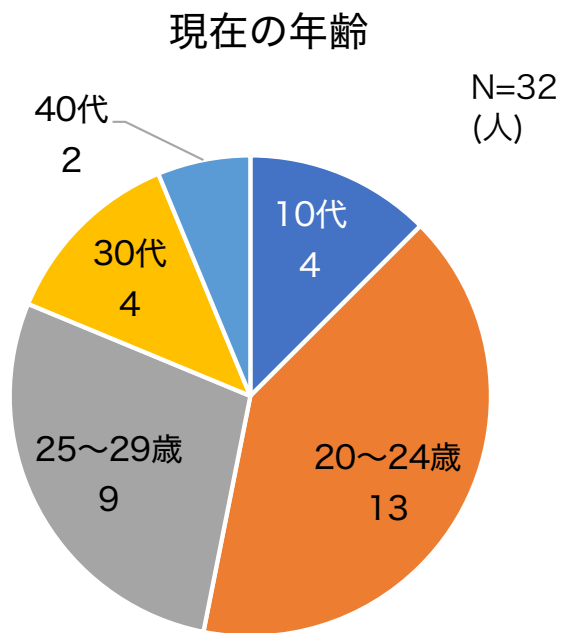


図1

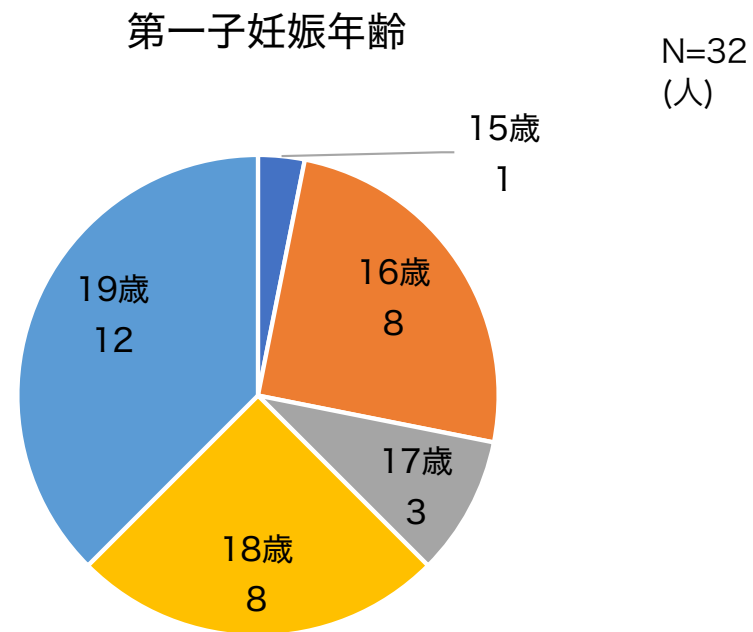
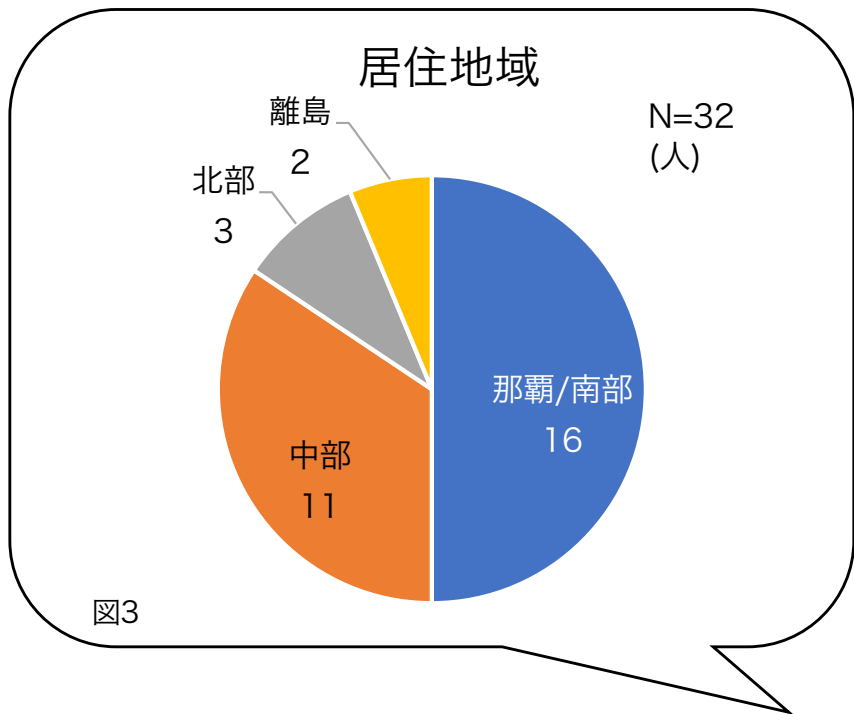


図2



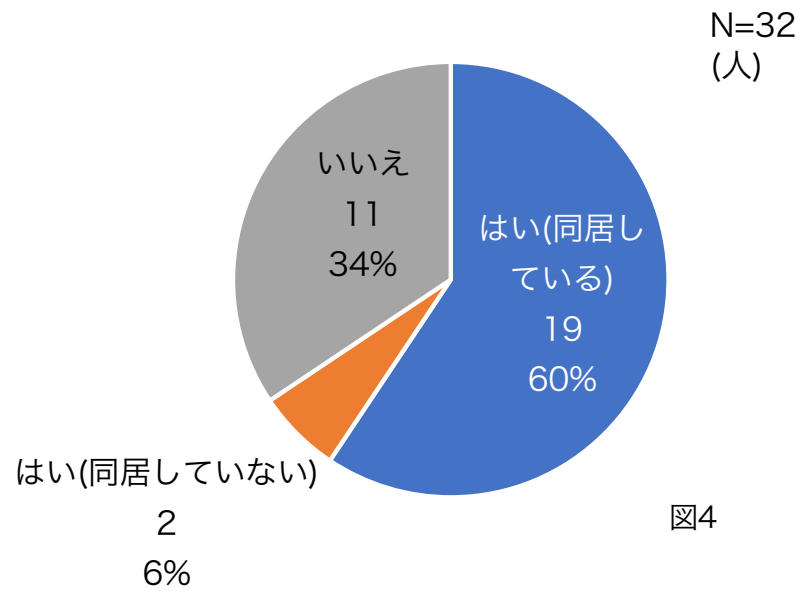
居住地域別第一子妊娠発覚時年齢

N=32 (人)

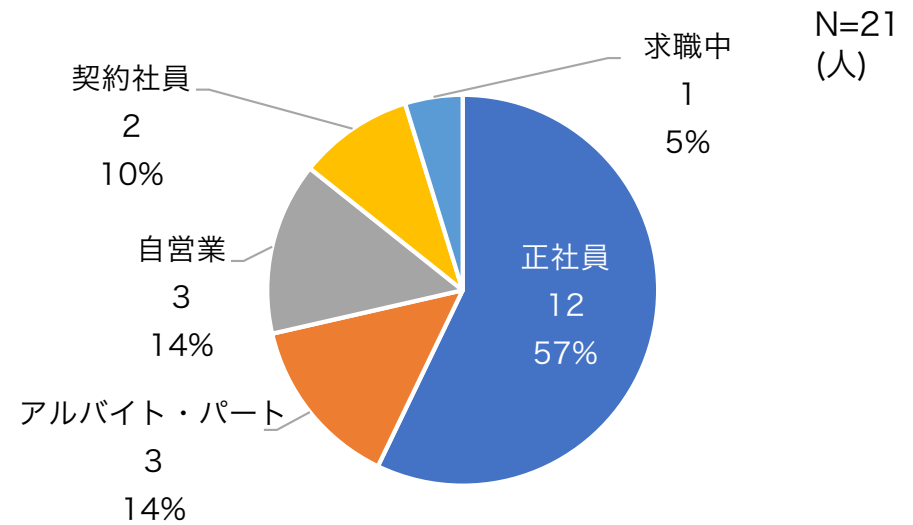
居住地域	妊娠発覚時年齢		
	15歳	16~17歳	18~19歳
北部	0	1	2
中部	0	4	7
那覇/南部	0	6	10
離島	1	0	1

表a

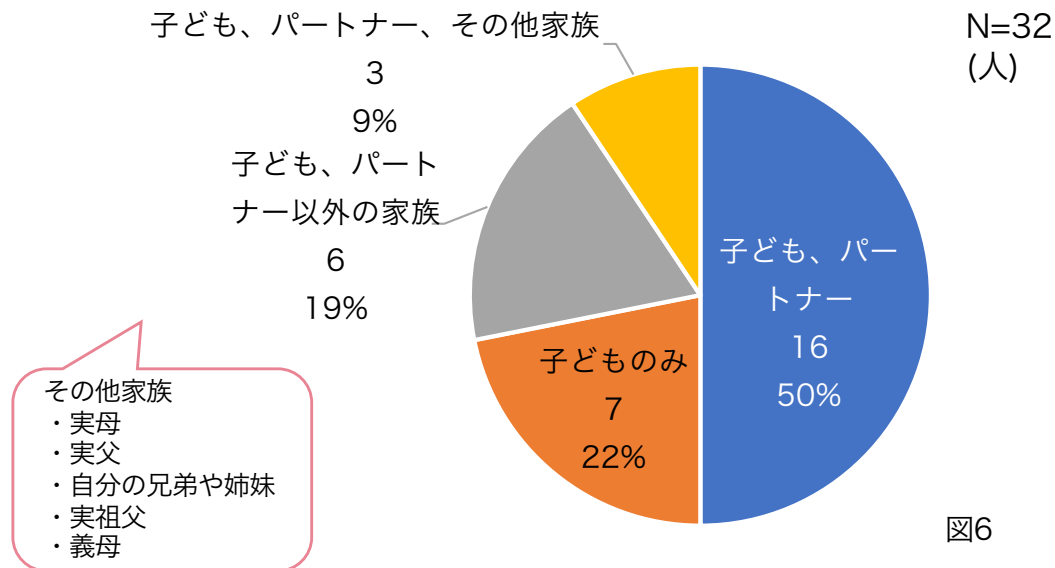
現在のパートナーの有無

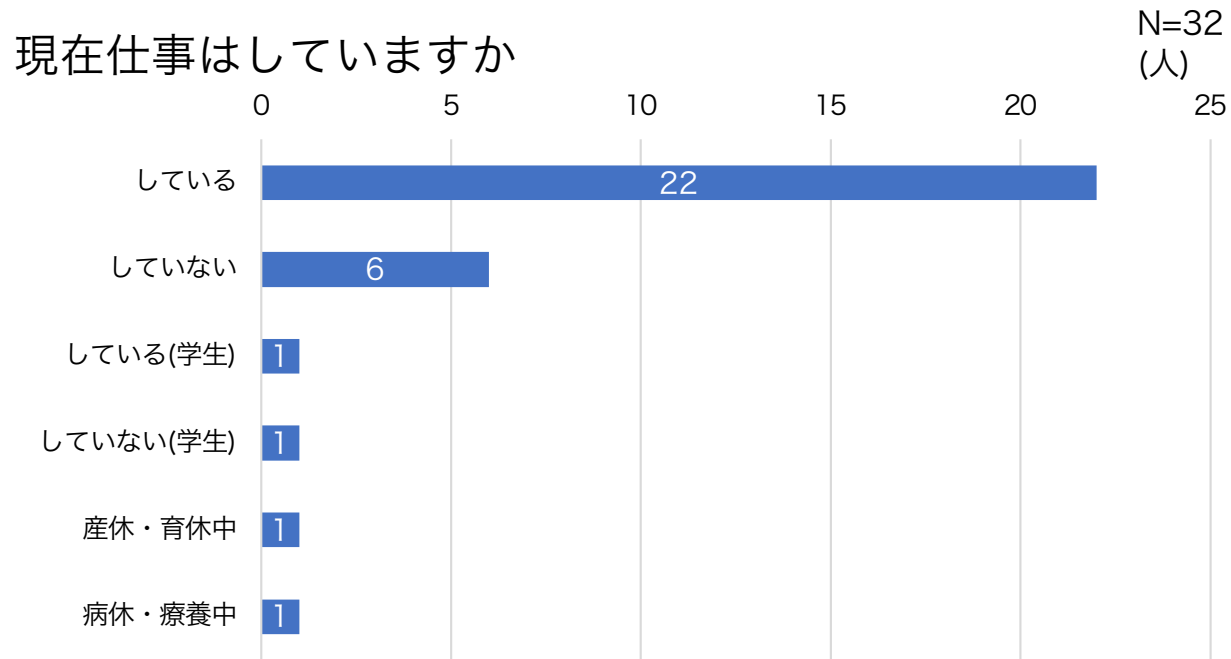


パートナーの就業状況



現在一緒に住んでいる人





仕事を「している」方の内訳

図7

雇用形態

N=25 (人)

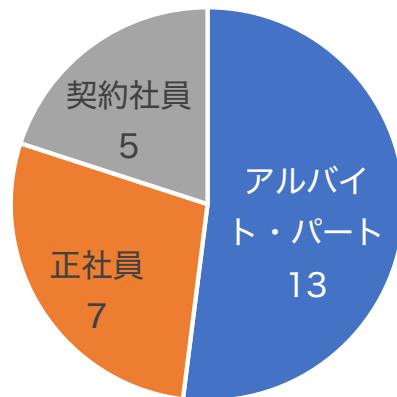
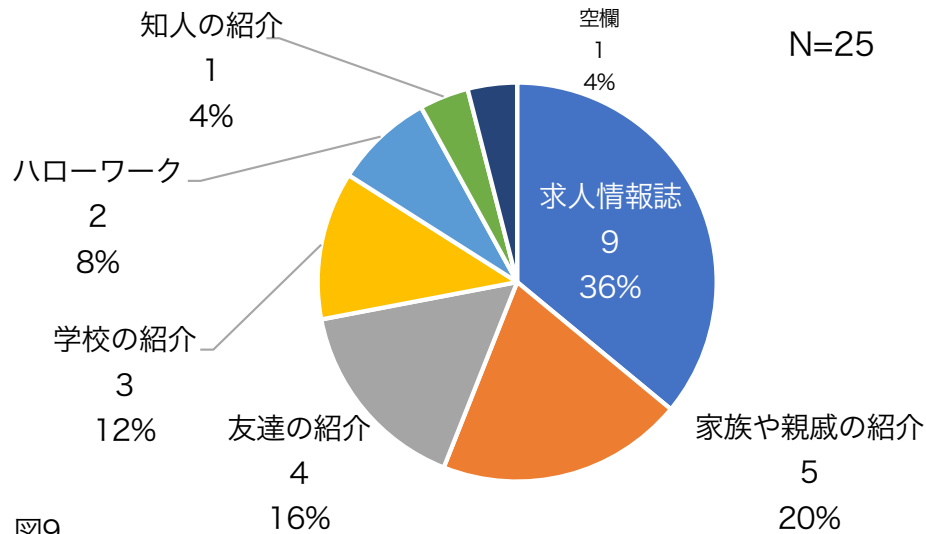


図1とクロス分析を行うと、正社員7人のうち、5人が現在20代後半以降であり、職の安定には時間を要することがわかる。

図8

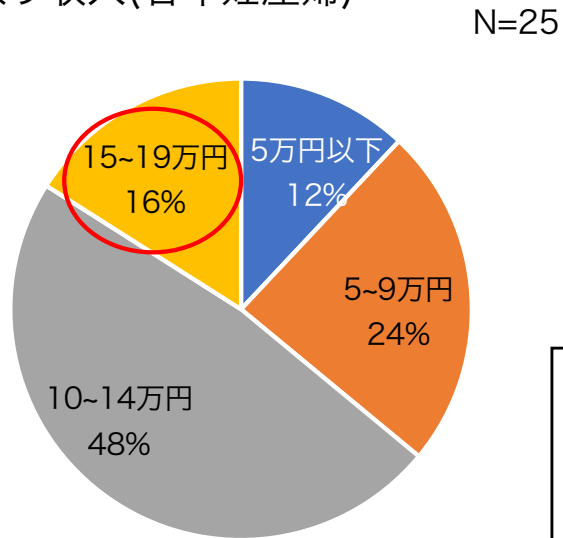
今の仕事はどこで見つけましたか



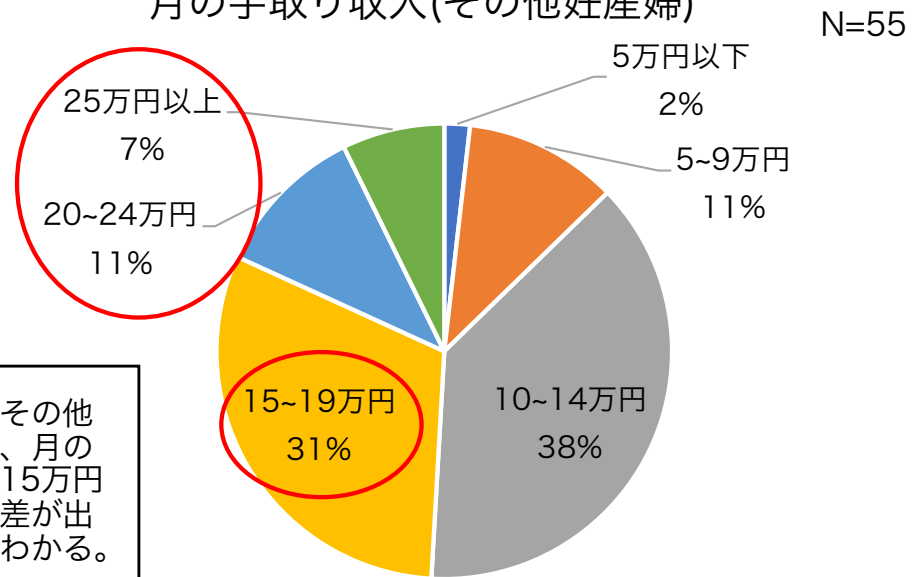
求人誌が最多で昨年と同様。
次いで家族や友人などの知人からの紹介。

図9

月の手取り収入(若年妊産婦)



月の手取り収入(その他妊産婦)



若年妊産婦とその他の妊産婦では、月の手取り収入が15万円以上で大きな差が出てくるのがわかる。

図10

図11

今の生活費をどのように確保しているか

(複数回答可)

N=55
(人)

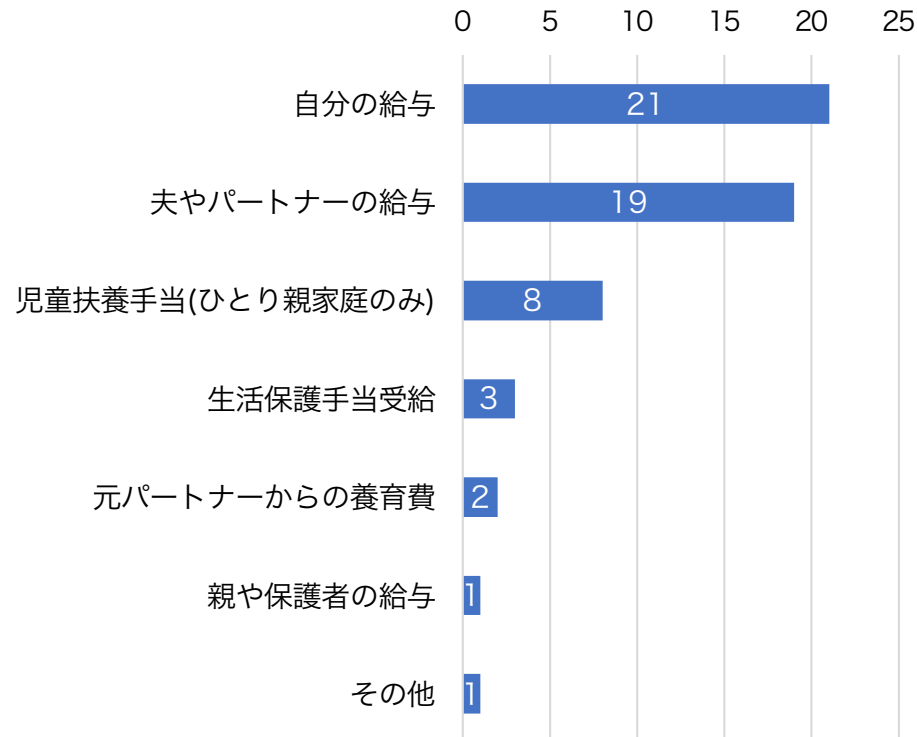


図12

図10とクロス分析をした結果、「自分の給与」の中で、手取りが14万円以下かつパートナーの収入がない(またはパートナーがいない)方が6人おり、経済状況が厳しいことが推察される。

金銭的な理由で諦めたもの

(複数回答可)

N=40
(人)

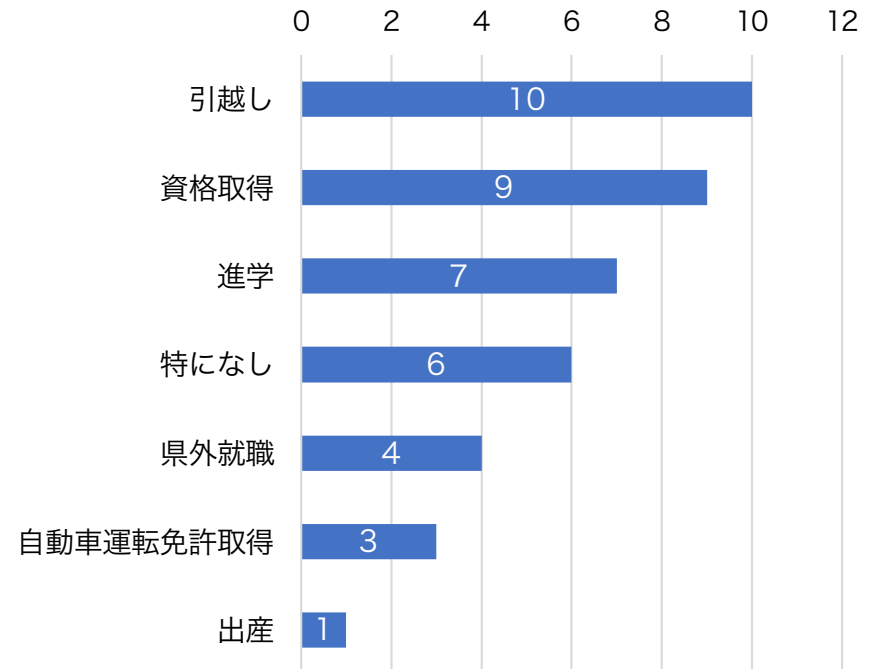


図13

「引っ越し」が最多。図11とクロス分析をした結果、うち半数はパートナーがおらず、収入源が自身の収入や手当のみのため、引っ越しの際の多額の出費が痛手となることがわかる。
また、図6とクロス分析をした結果、パートナー以外の家族と同居している方の44%が「引っ越し」を諦めており、生活の自立が困難な状況が伺える。ついで「資格取得」、「進学」と続いている。

最終学歴

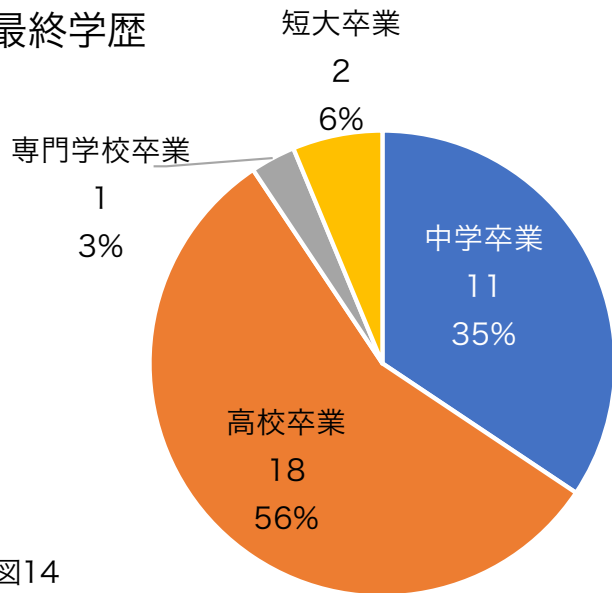
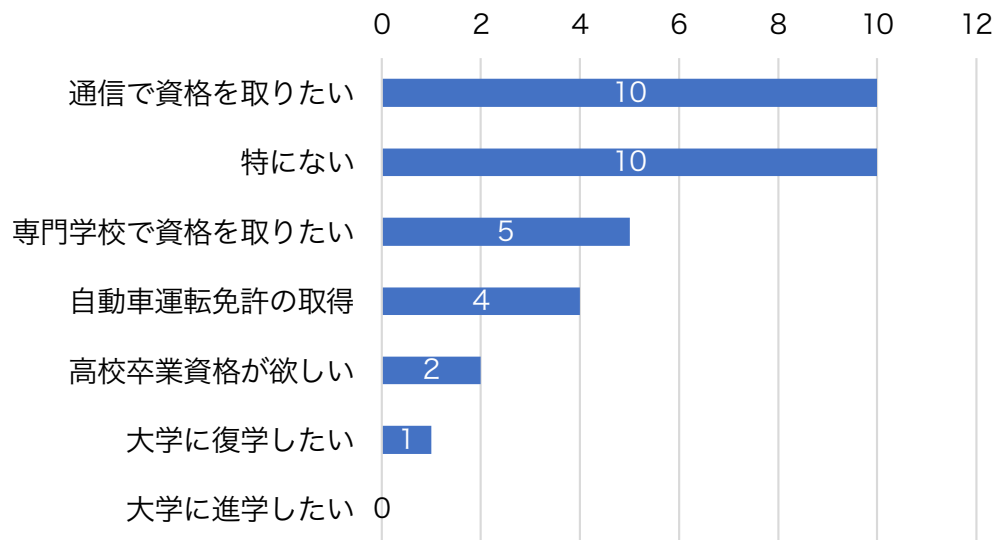


図14

N=32
(人)

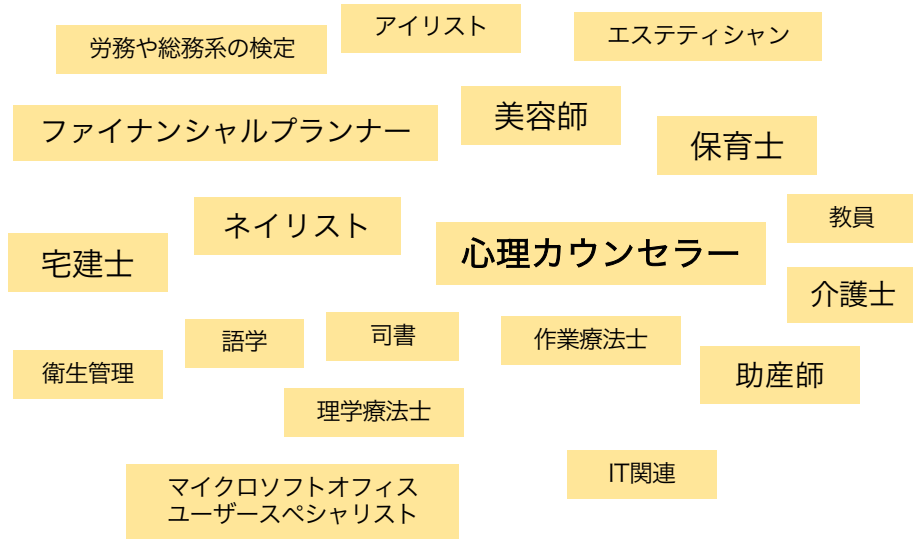
今、学びについてやりたいこと(複数回答可)



N=32
(人)

図15

取りたい資格



※文字の大きさ=希望者の数の多さ

図14より、最終学歴は「中学卒業」と「高校卒業」で9割を占めている。また、学びについては資格取得が最多であり、大学進学を選択した方がいないことから、当事者たちは**すぐに就労に繋がる学びを求めている**と考えられる。一方で、*厚労省のデータより、高校卒業女性と大学卒業女性の賃金を比較すると、25~29歳で年間45万円、30~34歳では年間62万円の差があり、男性よりも学歴による賃金差が大きい。また、歳を重ねるごとに差が開いていくため、長期的な収入を考えると、学びを深めることの大切さを本人たちへ伝えていくことやその環境調整が重要である。

*令和5年賃金構造基本統計調査の概況



図16

若年妊産婦の居場所について

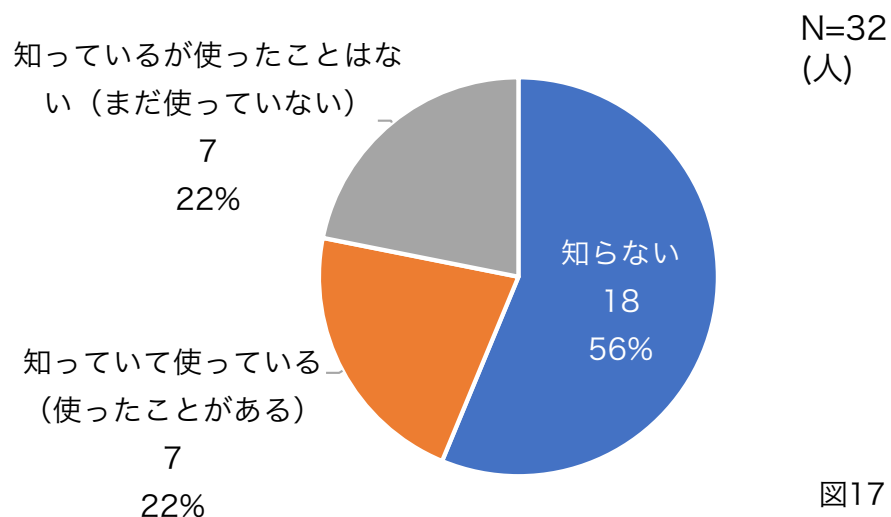


図17

「知らない」の地域別内訳

- ・居場所がある地域…38.9%
- ・居場所がない地域…61.1%

「知らない」の年代別内訳

- ・20代前半…44.4%
- ・20代後半…38.9%
- ・30代以降…16.7%

10代の回答者は「知らない」が0人

あったらいいな と思うサービス

託児付きのマッサージ・美容イベント
不要になった子供服の無料譲り会
**おむつやミルクなどが
貰えるサービス**

心の病気の治療中でも保育園に長く通わせてほしい。
3ヶ月で病が治るわけがない。認可保育でも途中辞退など
圧をかけるシステムがなくなればいいなと思います。

移動費の補助

無料のイベント

自動車学校に行く費用を補助してくれるもの。
格安で乗れるタクシーてきな、てだこバスみたいなのを
また、だしてほしいです。

こどもの一時預かり

小学校だと学童無料預かりや給食費学校にかかる全ての費用完全無料(ひとり親2人親関わらず一律全員)

こども食堂(もう少し頻度増えて欲しい)

子どもの居場所

食料品配布

子どもの遊び場
ママさんの居場所

小学生の習い事など無料で学べる居場所

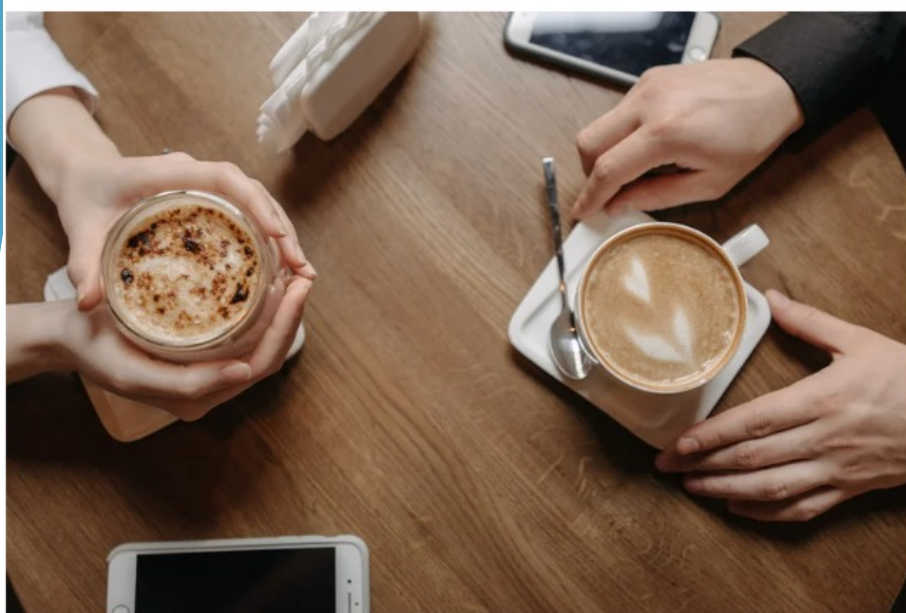
多国籍の子供たちが交流出来る場

インターナショナルスクールの無償化
子ども向けで、本格的な語学やプログラミングなどの
資格取得に向けた講座等の無料開催

参加無料のeラーニング講座

図18

当事者ヒアリング報告



対象者と実施方法

調査期間：2024年6月28日～10月27日

対象者：10代で妊娠・出産を経験した方

実施方法：対面、オンライン

実施数：25件(個別20名、集団5名)

属性

N=25
(人)

居住地域	妊娠発覚時の年齢			合計
	15歳	16~17歳	18~19歳	
北部	0	4	4	8
中部	1	3	3	7
那覇/南部	0	4	4	8
離島	1	0	1	2

表b

ヒアリングまでの経緯

N=25
(人)

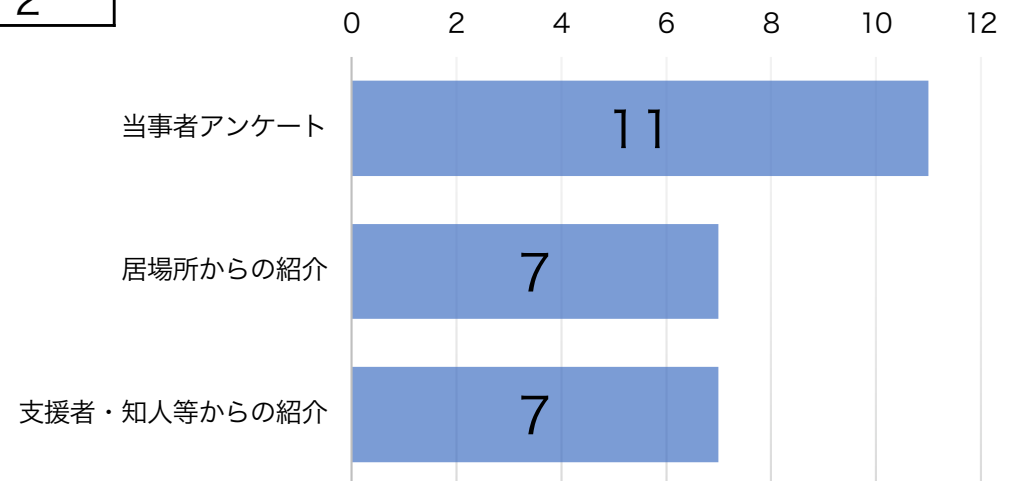


図19

ヒアリング実施場所

- ・カフェなどの飲食店…18人
- ・若年妊産婦の居場所…7人



属性

N=25

現在の年齢	(人)
17歳	3
18歳	3
19歳	4
20歳	2
21歳	1
22歳	1
24歳	2
25歳	3
26歳	1
27歳	3
32歳	2

現10代 10人

20代前半 4人

24歳以降 11人

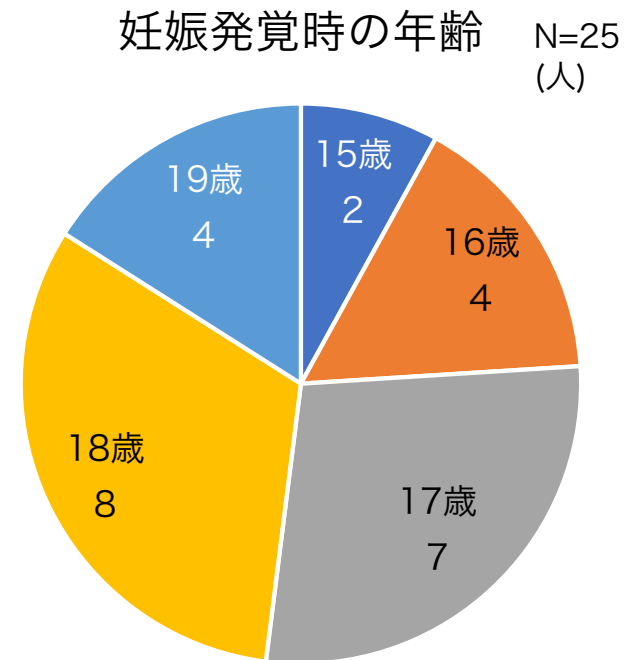


図20

表c

家族関係

家族関係について話してくれたのは25人中18人

母親がシングル 5人

父or母親が再婚 2人

両親が不仲 4人

家族関係良好 4人

その他 2人

母親が精神疾患
兄妹が多くて自分だけ祖父母
宅で育てられた

聞けなかった7人の理由

- ・ 集団でのヒアリングだった
- ・ あまり話そうとしなかった

18人中9人は
本人含む兄妹が4人以上



親族も多く、小さい子の世話をしていた経験があり、ヤングケアラーであった可能性がある。

- ・ 子どもが生まれてからのギャップは特にはない。弟と妹が小さくて一緒に育児してたから。
- ・ もともと甥の面倒も見ていた。親戚の家に泊まりに行ったときに親が夜いないから自分たちがみていた。
- ・ 祖母の自宅で従姉妹などと大家族で育った。祖母がいないときは従姉妹の子どもにミルクあげたりしていた。

妊娠前の生活環境が複雑なケース

10代

父親は酒飲みで飲むと怒鳴ったり、物投げたりして母親が泣いてる中で子どもは隠れていることが多かった。兄も暴力をふるうこともあって**怖かった**。

母親の実家に住んでたけど、叔父がめんどくさくて出ていけって言って。揉めたからパートナーの家に住んでた時期もある。

20代
前半

母親は17歳で自分を出産しシングル。パートナーのところに行ったまま、家に帰ってこなくなったので、13歳ぐらいまでは叔母が育ててくれたようなもの。母親と一緒に住み始めてもあまり家に帰ってこない(パートナーのところに行く)ので、夜は自分もしょっちゅう遊びに行っていた。

24歳
以降

父親が再婚後、**継母から自分だけ虐待**を受けていた。**家出**をして捜索願を出されたこともある。

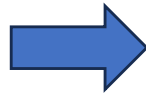
両親ともに中卒。小さい頃は**親が借金抱えていた**。母親は精神疾患があり入退院を繰り返している。

中学校までテレビも見ず、携帯電話も持たず友達との会話についていけなかった。いじめにもあって生きづらさを感じていた。高校で自由に過ごせる環境になり、**我慢していたものが爆発した**。その頃両親の関係性が悪くなり、いつも仲裁していた。**家にいたくなくて、夜も遊んでいた**時に妊娠した。

妊娠発覚時

生理が遅れている

体調が悪い日が続いた



ほとんどの方が初期の受診
(受診前に妊娠検査薬使用)

「気づいた時にはおろせなかった」は1名 「20週は超えてた」

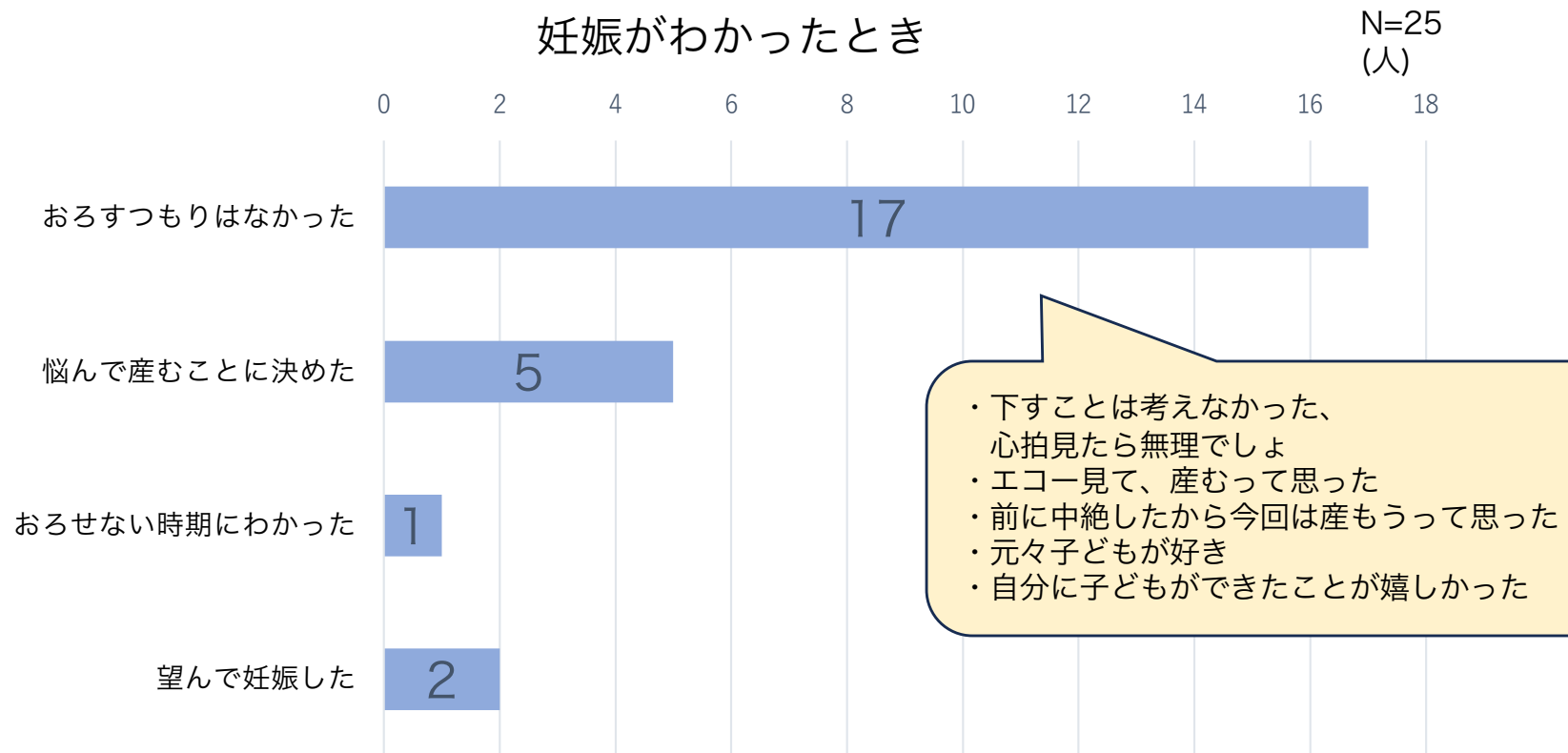


図21

パートナーとの関係

一緒に育てている・付き合っている

夫が定職につかないことで、職を転々としている状況が不安。

高校のときは暴走族でバイクを乗り回していたが、現在は働いている。

相手は入籍も希望しているが、あっちの親が難儀だからするつもりはない。

今年の4月に転職。しかし、帰りも遅く、体重も減っていて疲れている。

仕事はしているけど、賭け事が多くてお金がたまらない。

別れた

借金もあり夜の仕事で家に居ても寝てることが多く、家族としての役割はなかった。最終的にだらしなさも有り別れた。

パートナーの母親に「あなたから生まれる子は不幸せ、産まない方が良い」と言われたりしていた。

旦那が働かなくなってから、自分が昼と夜の掛け持ちした。夜は旦那が子どもみてた。旦那は仕事にいかない日が増えて、それがきっかけで離婚しようと思った。

束縛がひどく、友達にも会えない、どこに行くにも許可が必要で大変だった。

困ったこと・悩んだこと

10代

子育てしながらなかなか勉強できない。卒業まで何年かかるかな？とりあえず高校は出たい。

ミルク代や水代、おむつが一番高い。野菜も高いから買えない、キャベツは高級食材だよ。

通信制は保育園の書類で「学生」にならないから長く預けられない。長く預けられないと働く時間も限られる。

20代
前半

こんな状態(中卒、子育て中)でも働きやすい仕事を探すのが大変。

妊娠中、実家に帰りたくなくて旦那の家に泊まっていた。

勧められて支援センター行ったけど、同年代がいなくて居心地悪かった。気まずくて15分で帰った。

保育園の先生との関係で悩んでいた。長女が便秘で好き嫌いも多く、食事量が取れない子で。保育園の先生に、オリーブ油をスプーンで飲ませたら？とか離乳食に戻したら？とか色々言われた。自分が歳下だから何言ってもいいって思ってる。

24歳
以降

生まれてから1年過ぎて育児放棄した。保育園の保護者に高校生なのによってめっちゃ言われて、何もかも嫌になって1か月くらい家出した。子どもの事が気になって家に帰ったらママって呼ばれなくて、名前と呼ばれた。それがショックでしっかりしようって思った。

子育ては「努力=できる」でもないから苦しかった。頑張ってもできないから子どもに厳しく当たっていた。

学校の反応

10代

おめでとうって言ってくれた。(学校に)戻るつもりだったので復学したいって言ったら、「待ってるからね」って言ってくれた。

休学しないで卒業したいって伝えてた。高二で妊娠がわかって、高三も担任の先生と一緒にいたから本当に良かった。出席日数のこととかも教えてくれた。

中学)講和をしてほしいって中学校に呼ばれた時に、10代で妊娠することのデメリットを強調してほしいって言われてキレた。

20代
前半

大学)検査した日に学校の登校日があっただけで、保健室の先生に伝えた。そしたらパートナーに話した方がいいって言われてすぐ話した。

24歳
以降

他の生徒が妊婦を見て性行動が活発になったら困る、性教育的に悪影響だから退学か他の高校に行くように言われた。

校長には退学にしてって言われたけど。担任は(本人のこと)心配して通信行ったらって勧めてきた。ボロクソ言われた。高校の先生にもう、その時は死にたかった。

夜間だから何かあったら責任取れないからやめてほしいと言われた。

行政へのイメージと関係性

GOOD

色々教えてくれる人で助かった。

何かあったら相談してる。「今〇〇あるからもらいにおいでー」って連絡してくれる。

遠くにいても名前呼んで声かけてくれて元気もらえた。

聞かないと分らないから何回も聞いて、迷惑ですよねごめんなさいって言ったら、逆に聞いてくれて嬉しいんですって言ってもらえたのが嬉しかった。

妊娠中から関わってくれている。途中で担当の人が変わったけど、同じように丁寧に連絡してくれる。

LINEでもやり取りしてるし、こまめに連絡くれるのが嬉しい。手続きが必要な時も、必要な書類とかもLINEで送ってくれる。

BAD

母子手帳もらうときに、県外の産み落とすだけの場所も紹介されてありえんって思った。産むって決めてここにいるのにつて。

情報だけ聞いて何もしないのが一番いやだ。だったら何も聞かないでほしい。

健診で困っていることはないですか？って聞かれてもないですって言っていた。子どもの事がかわいいと思えないとか言ったら変に思われるさ。

窓口は一人がいい。担当変わったらまた一から説明するの難儀。この人はできるっていうのに、担当が変わったらできませんって言われたりするの何とかしてほしい。

家に来る日にちも「この日とこの日しか来れないからどっちがいいですか？」ってあっちの都合に合わせてってかんじ。

役所の電話は出たくない。今度は何でおいでって言われるんだろうってドキドキする。

こんなサポートがほしい

10代

学校に通い続けたい(留年したくない)っていうのを叶えてほしい。

オンラインで授業があるとずっと良かった。体がしんどかった。

役所の人をもっと使える制度を教えてください。**お金**とか。

小児科まで**タクシー使える**と助かる。今家族を呼んで仕事休んでもらってから病院受診しているから自分で行けるようになると家族の負担も減っていきやすくなる。

住む場所がほしい。家賃が高くて見つからない。団地は待ちの状態。親もシングルなのにそれでも入れない。

20代
前半

妊娠SOSみたいなもの、今はコンビニにあるところも増えたけど、高校生の時に知ってたら中絶しなかったかも。大人に相談したかった。自分ではおろす選択しかできなかった。

ミルクとかおむつが毎月の出費であるから、そこを**無料**にしてほしい

10代で子育て中でも**働きやすい仕事の紹介**とかがあればいいなと思う。

24歳
以降

病気持ちの親の支援があまりない。結局自分で動いていくしかない。毎日頭がいっぱいいっぱいになる。

旦那と喧嘩した夜とか心が疲れた時に**子どもと二人で行ける場所**欲しい。
妊娠中に**家族と喧嘩した時に住める場所**がほしい。

もっと**居場所とかの情報**がちゃんとわかるように伝えてほしい。

家にいたくなくても行く場所ないから、**泊まれるところ**が欲しかった。本当は子ども置いていきたくなかった。何も言わなくても聞かれないでいさせてくれるところが欲しかった。

フードバンクの受取時間に仕事してるからもっと伸ばしてほしい、**子ども食堂も時間延ばして**ほしい。声かけれないから**声かけて**ほしい。

居場所利用者の声

人が明るくて落ち込んでいるときも元気になる。役所とは対応が違う。一人一人を見てくれているんだなーっていう安心感。

地域が決まっていると狭くて、元彼の浮気相手とかがきたりするから同席NGがいる。**狭いと知り合いに繋がる**から、あんまり話せないなって思う。

最初知らない場所に行くの嫌だった。見学もできて、見学も妊娠していない友達と一緒にきてもいいよっていうのとかよかった。

自分の事を大切に思っているのが伝わる。家で嫌なことあったりしてもここに来たらリフレッシュできるから**また頑張ろうって思う。**

家族に言えないこととか**家にいたくない時に子どもと行ける場所**は本当に必要だと思う。



一人暮らしもし始めたばかりでご飯も作ったことなかったから、**一緒に作れるの助かる。**

手続き関係のことを教えてもらえて、書き方とかも聞ける。

よく行ってる。最初も1人で行った。**お母さんもパートナーもいない居場所が好き。**

「ご飯食べにおいで」とか「今日来る?」とか連絡くれる。**否定せずに寄り添って話を聞いてもらえる**のが本当にありがたい。季節毎の制作とかできるのもいい。家でやろうと思ってもなかなかできない。家にいたらやらないといけないことがたくさんあるけど、**ここに来たら子どもとたくさん関われる。**

ヒアリング結果のまとめ

- 生活環境が複雑で、妊娠前から家にいたくないと居場所がなかったケースがある。家族関係が良好な場合は産後もサポートしてもらっている。
- 育児についてはきょうだいや親戚の子の世話をしていたという方も多く、ギャップなどは感じなかったという意見が大多数で困り感の表出はほとんどなかった。
- 出産後は就労や就学に関し、育児との両立に悩む声があった。
- 大人との関わりは、「何度も気にかけてくれる」「丁寧に対応してもらっている」と感じられると良好な関係を築けている。一方で、「探られている」と感じると距離を置く傾向にある。
- 居場所利用者の満足度は高く、家以外に心地よく過ごせる場所が必要。一方で、地域が限定されることで起こりうる不都合もある。

支援者・想定支援者アンケート報告



令和6年度 沖縄県 若年妊産婦支援促進事業

お問い合わせ

主催：沖縄県 子ども未来部 子ども家庭課  運営：zeroplace合同会社 
担当：金子 美津子 担当：島袋 綾香(助産師)
Tel: 098-866-2174 Tel: 050-1751-9354
Mail: kanekomt@pref.okinawa.lg.jp Mail: info@zeroplace.jp
HP: https://www.zeroplace.jp/

対象者と実施方法

調査期間：2024年8月12日～10月10日

対象者：若年妊産婦支援に興味・関心がある方

実施方法：Webアンケート

配布数：約140部(41市町村母子保健、貧困対策関係、
教育関係、看護、助産、医療等)

回答数：234件

アンケート回答者の属性

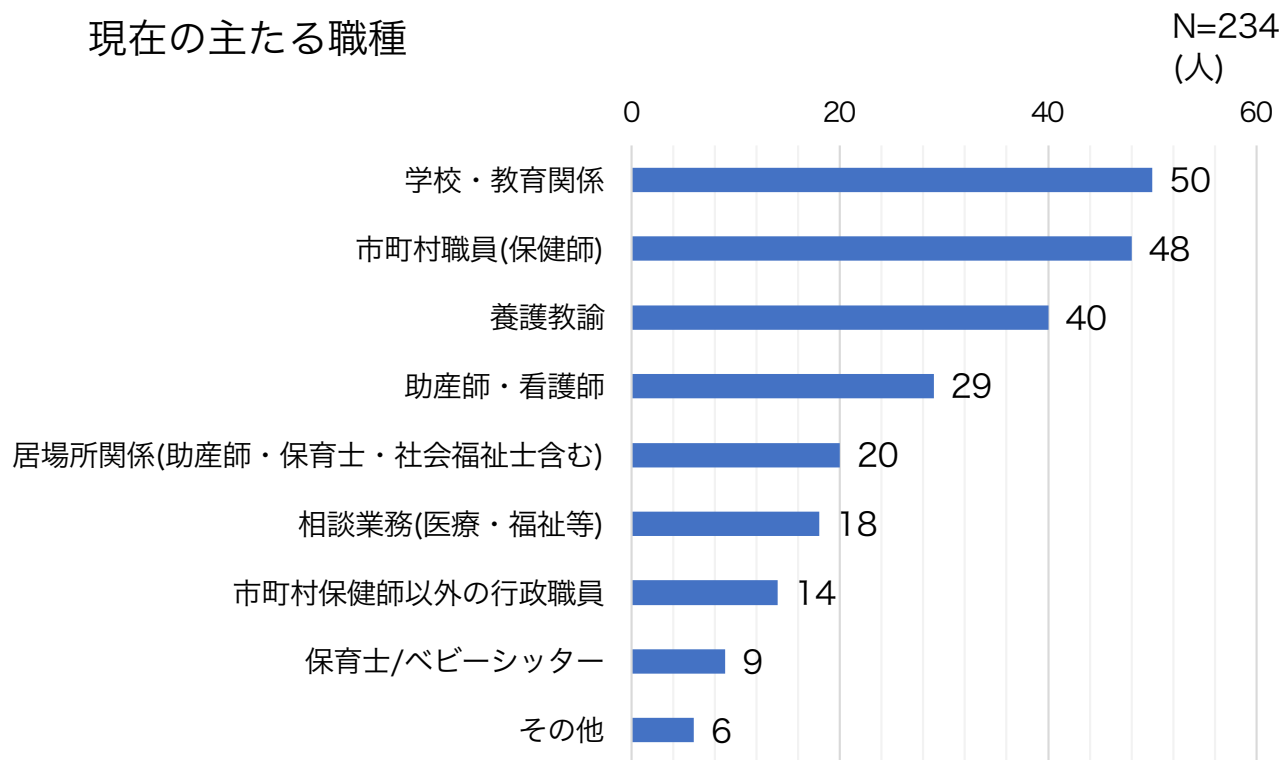


図22

- 学校・教育関係(養護教諭除く)
- ・相談業務(学校)
 - ・就学継続支援員
 - ・教育相談
 - ・スクールカウンセラー
 - ・高校のサポートルーム支援員
 - ・教員
 - ・学校支援員

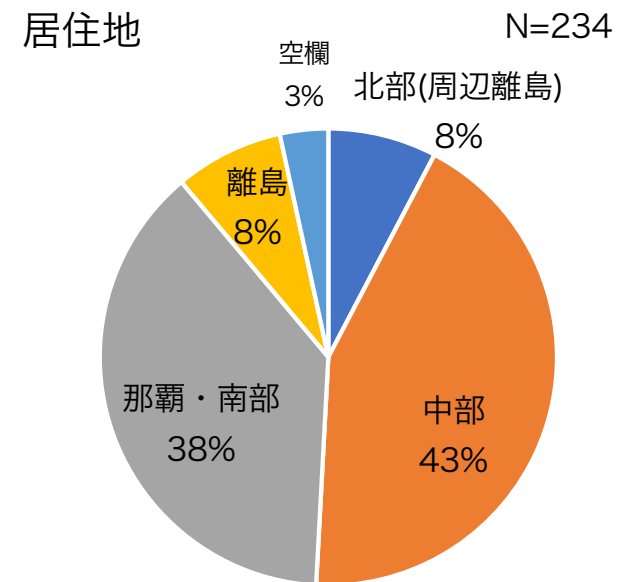


図23

アンケート回答者の属性

現職何年目

N=234

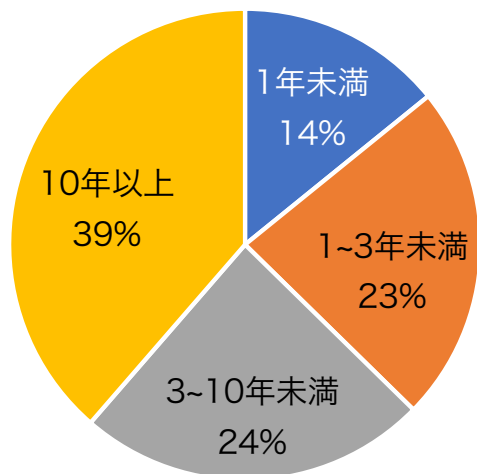


図24

10年以上が最多。
現職の勤続年数が
複数年の方が8割以上。

年齢

N=234

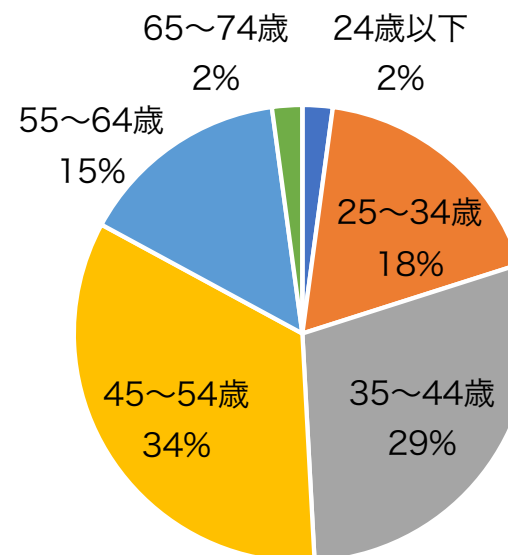


図25

性別

N=234

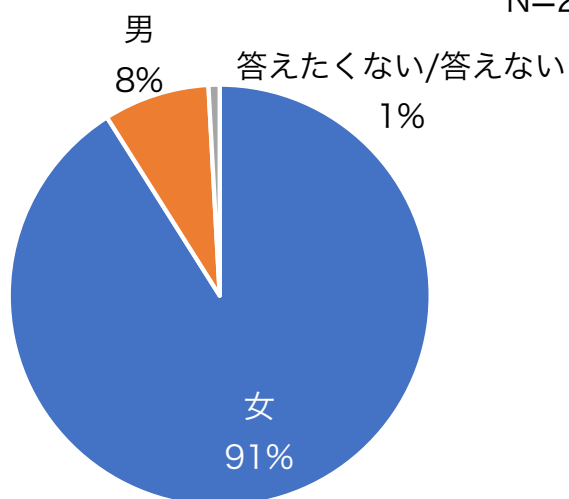


図26

アンケート回答者の属性

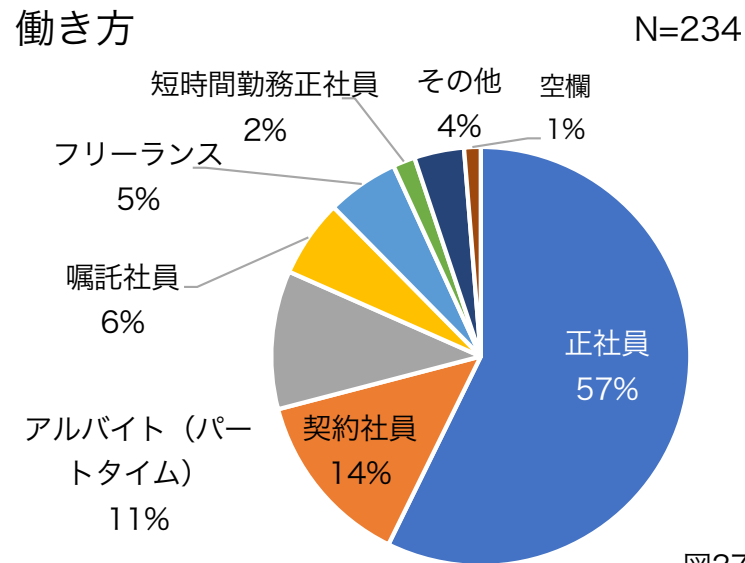


図27

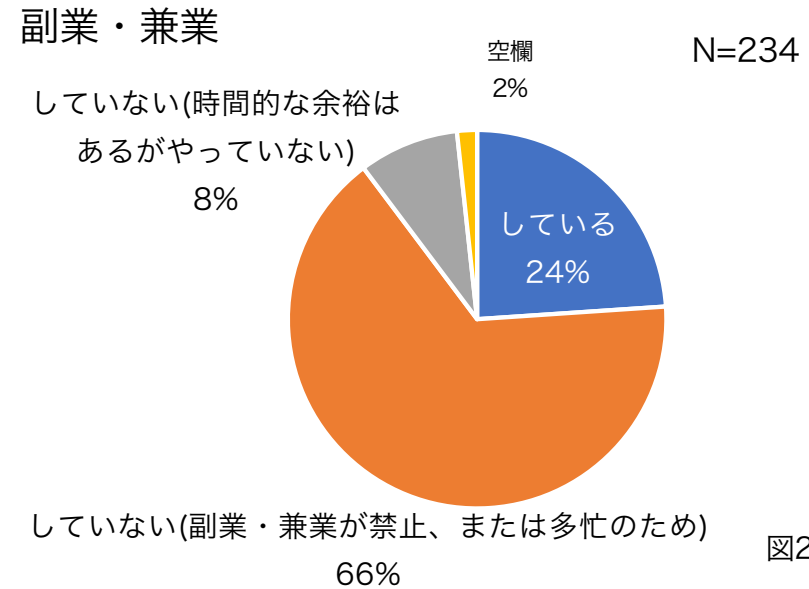


図28

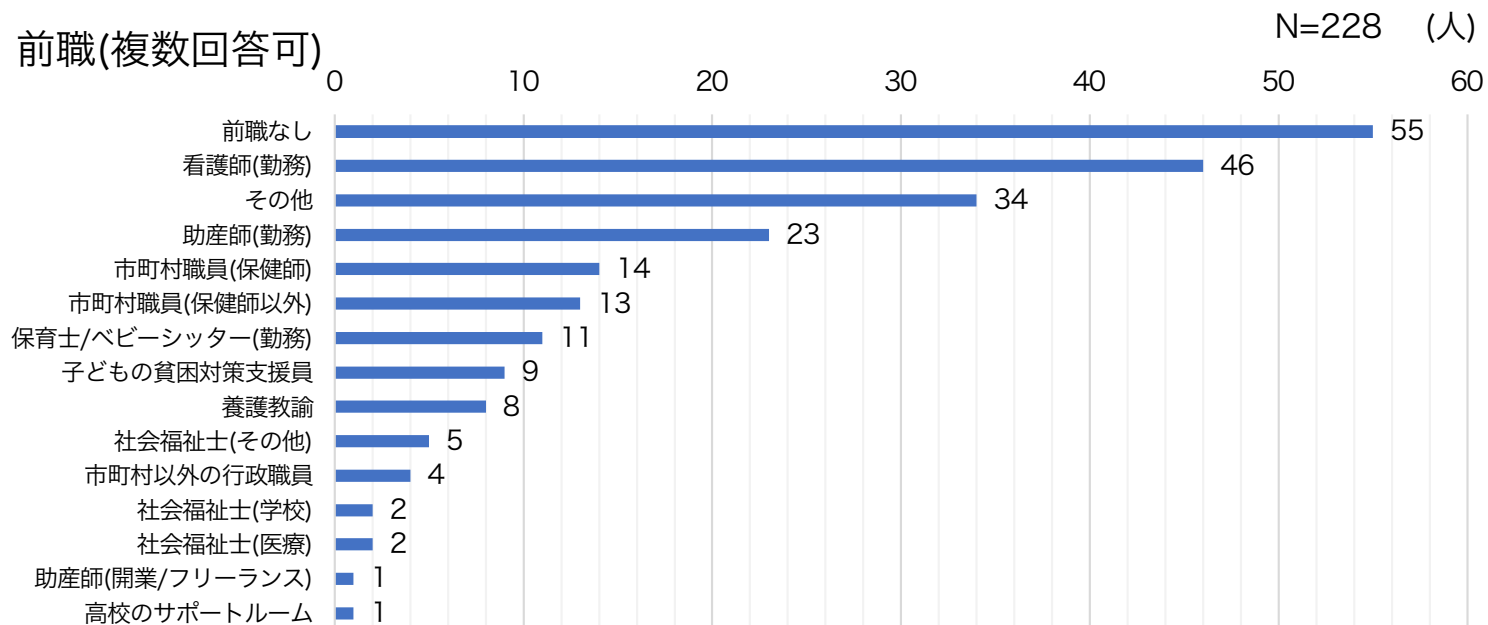


図29

「若年妊産婦」の認知

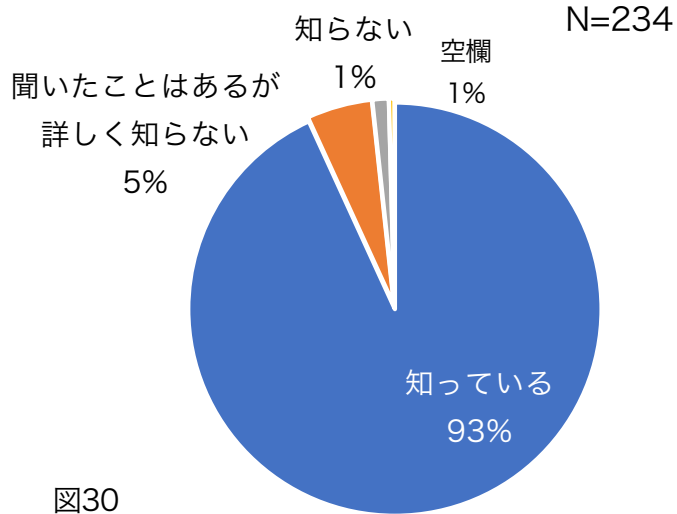


図30

職種に関わらず、回答者の93%の方が若年妊産婦という言葉を知っている。

担当以外での関わり(複数回答可)

N=239

現在

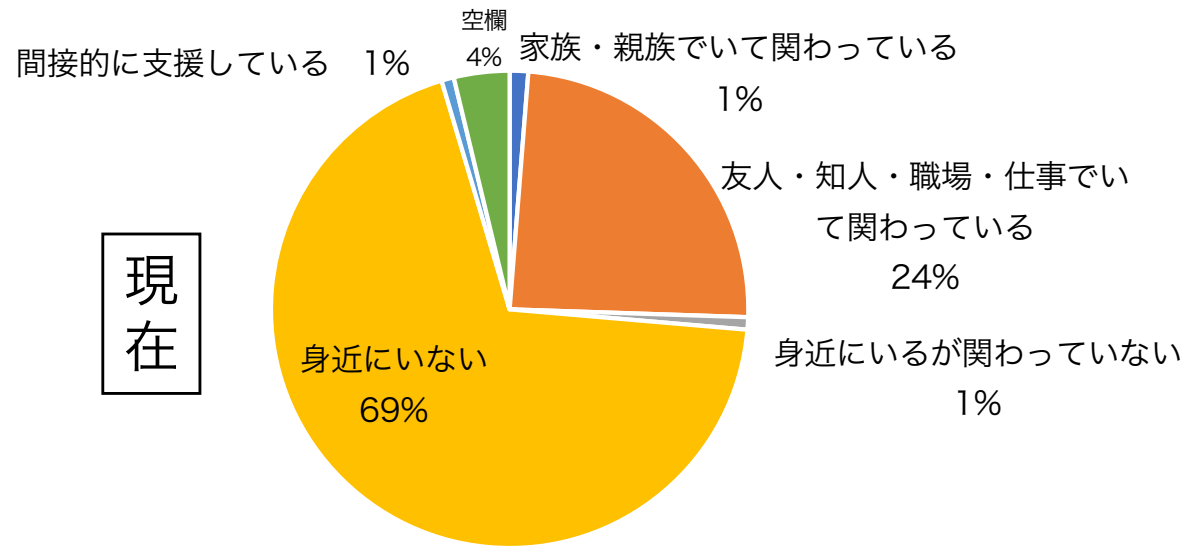


図31

若年妊産婦を担当しているか

	はい	いいえ
現在*	40%	59%
過去	44%	56%

表d

*1%は空欄

過去

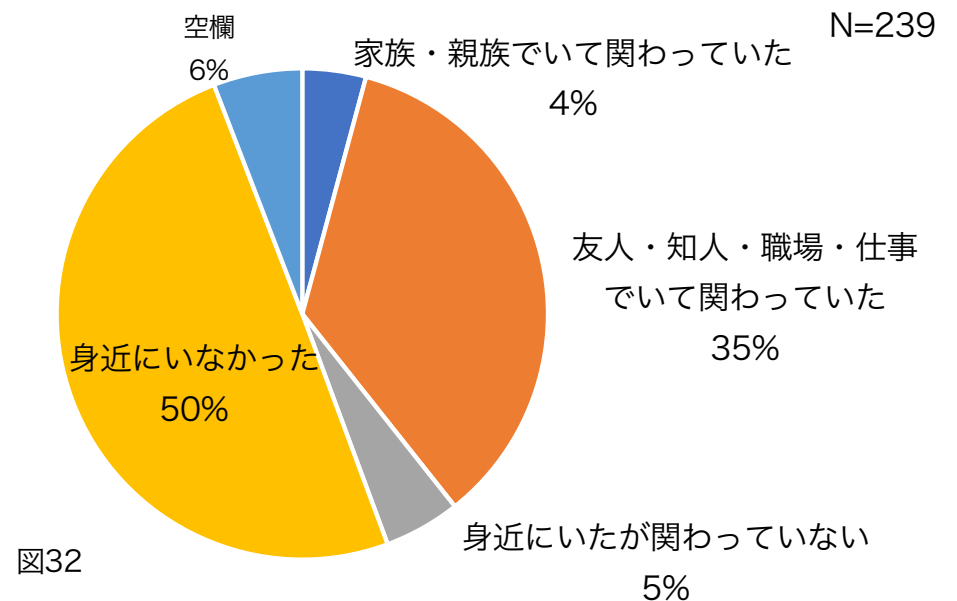


図32

回答者の6割は担当歴はないが、身近に当事者がいたことなどから関心があると考えられる。

若年妊産婦に必要だと思う支援(5つまで)

N=1116 (人)

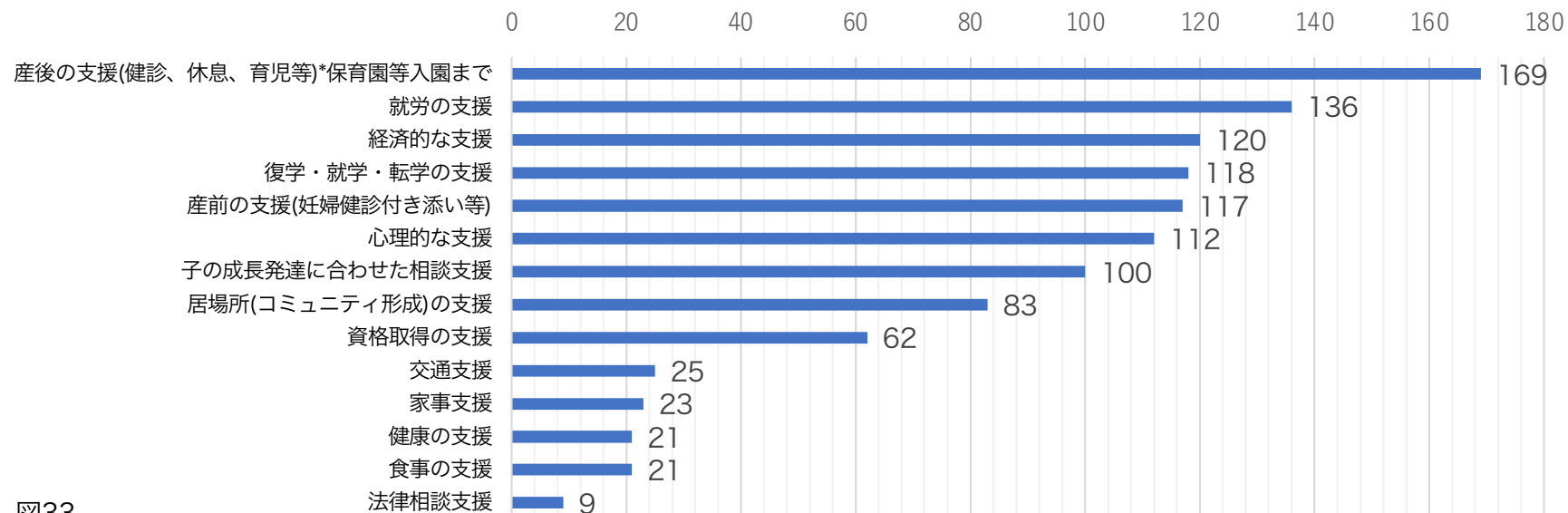


図33

「産後の支援」が最多であり、次いで就労、経済、就学と、経済的に自立するための支援が必要と考えている方が多い。これらの支援を包括的に担う支援機能や専門員支援が必要であり、若年妊産婦の居場所ではこれらの支援を実施している。

団体・居場所等で知っているものはありますか？

N=576 (人)

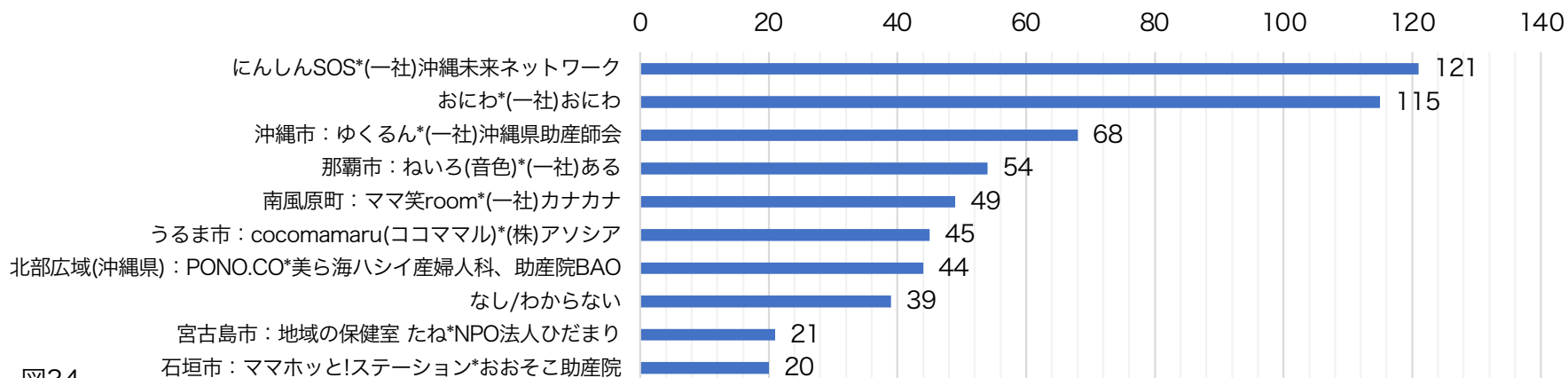


図34

「にんしんSOS」が最多であり、コンビニのトイレ等身近な場所にチラシが貼られていることが関係していると考えられる。次ぐ「おにわ」はメディア等への露出が多く、認知度が高いと考えられる。

「支援」への興味・関心

N=234

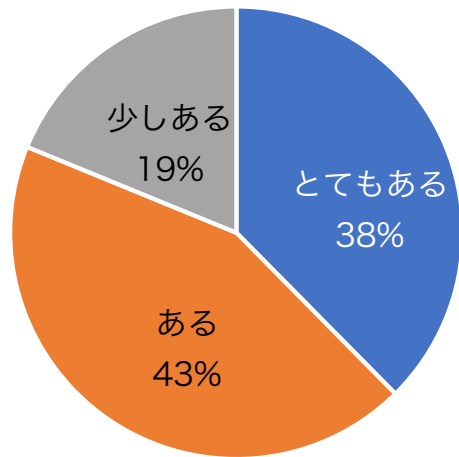


図35

支援に興味・関心がある理由(複数回答可)

N=403
(人)

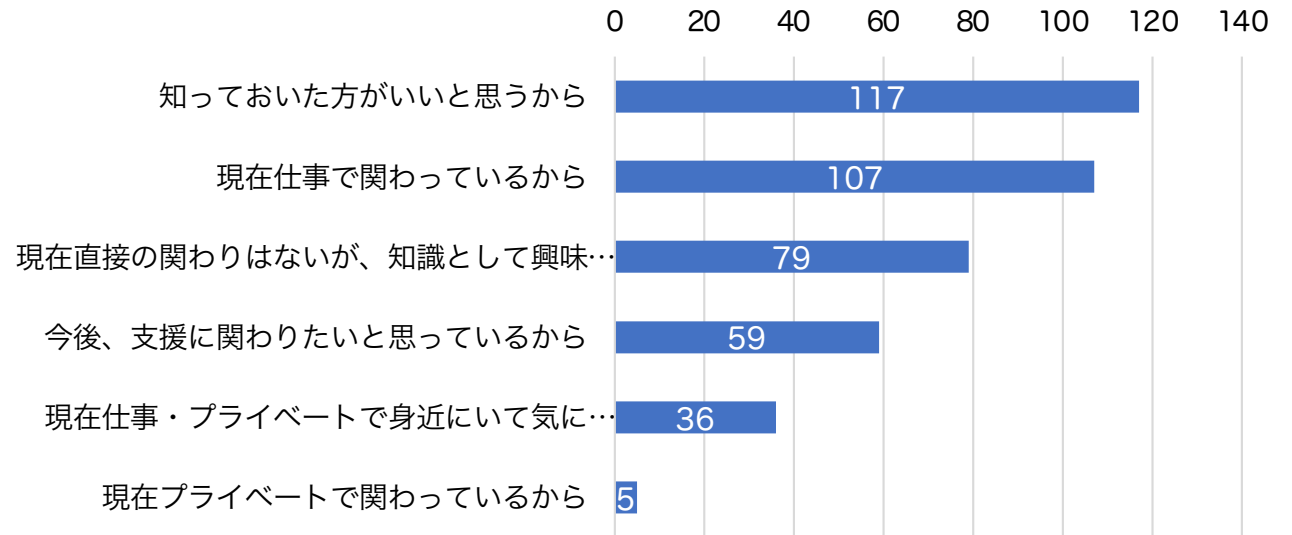


図36

支援者として関わることへの興味

興味がない(関わりたくない)

N=234

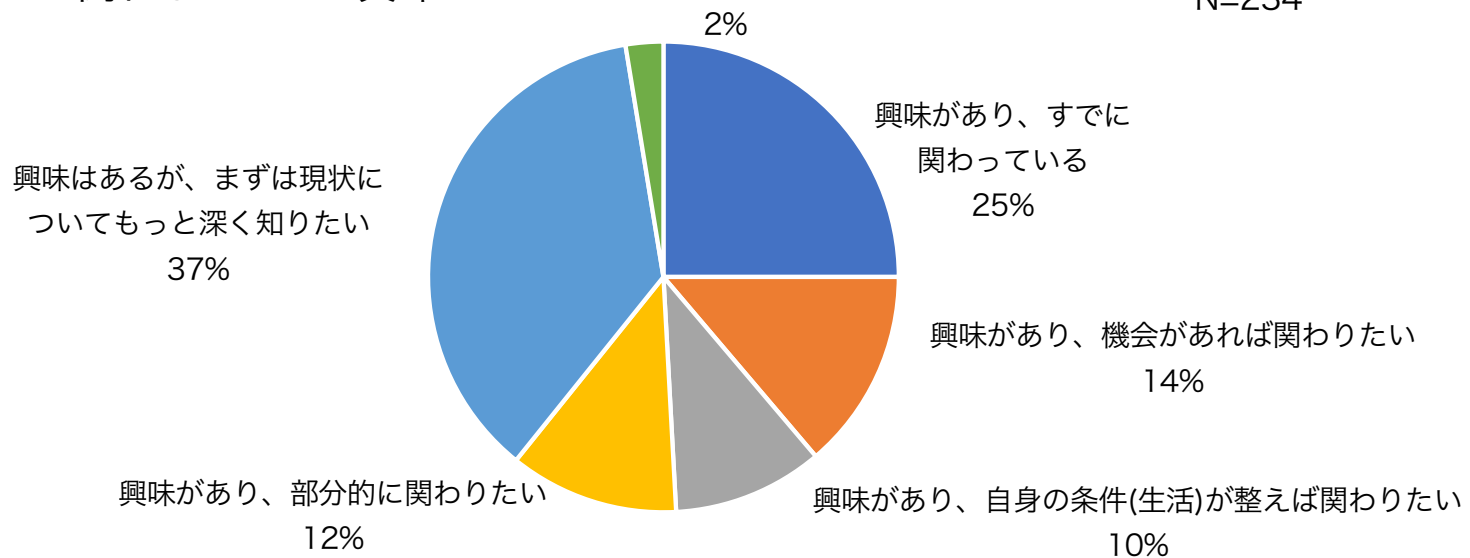


図37

支援への興味・関心は80%を超えているが、支援者として関わることについては、まずは現状を知りたいという回答が最多。すぐに関わりたいという回答は少なく、支援者になる前に学びの場を求めていることがわかる。

最も不安に感じていること

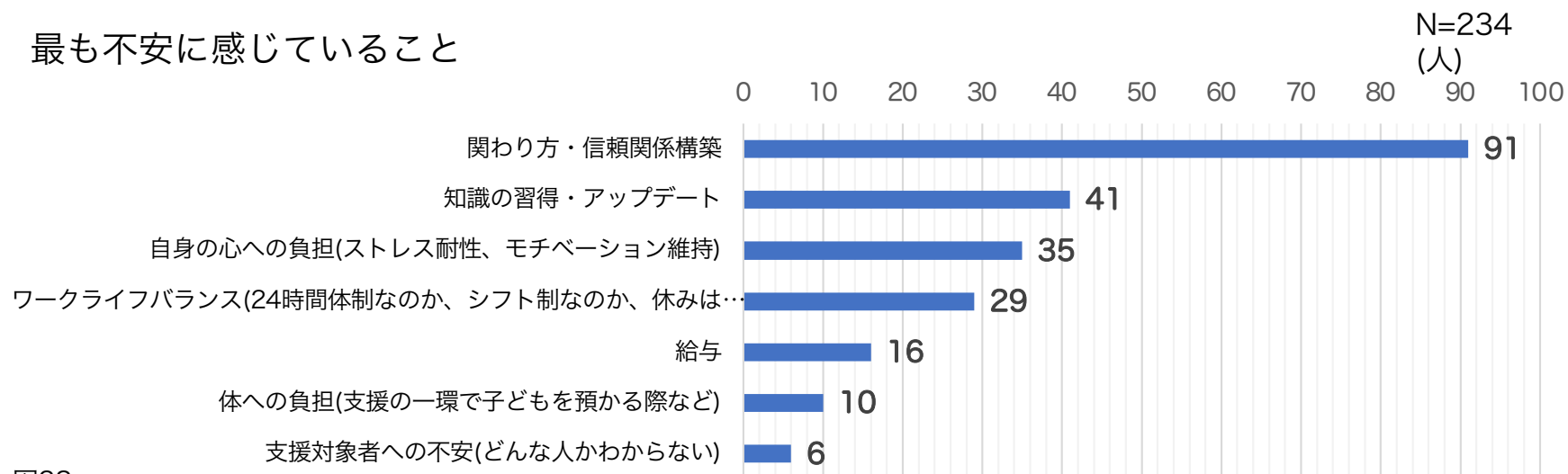


図38

支援者として関わる際に最も不安なことについては「関わり方・信頼関係の構築」が最多で、2位の回答の2倍多い。図22とクロス分析をした結果、「関わり方・信頼関係の構築」を選択している方は市町村保健師が群を抜いて多い結果となった。

関わる上で上記以外に不安に感じていること(複数回答可)

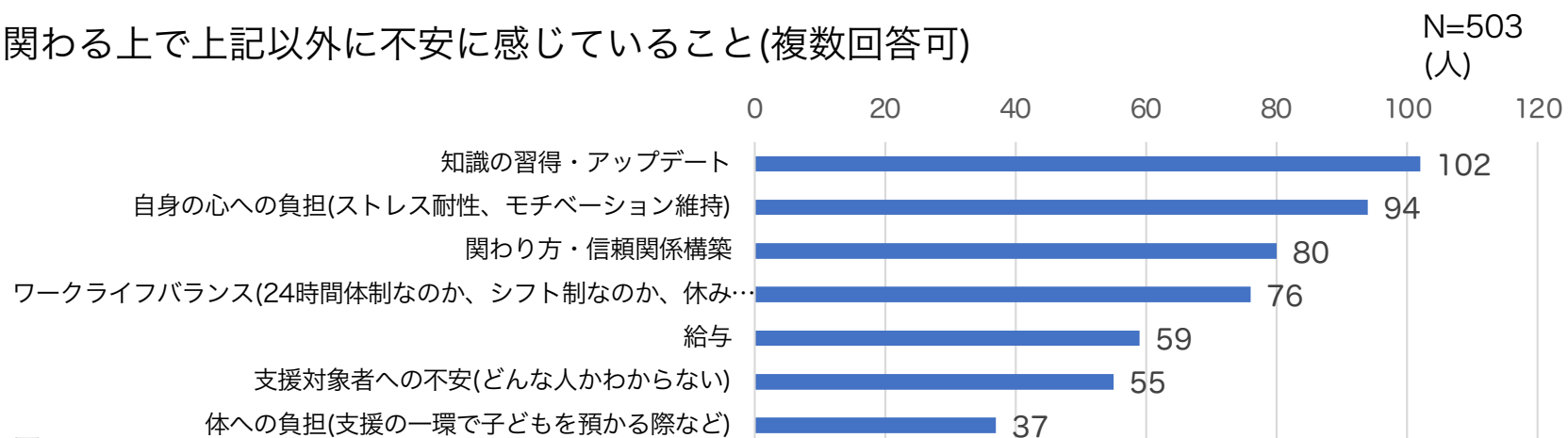


図39

図35で答えたもの以外で不安なことについては「知識の習得・アップデート」が最多で、次いで「自身の心への負担」であり、コミュニケーションや知識面において不安を感じている方が多い結果となった。

最も会得したい知識

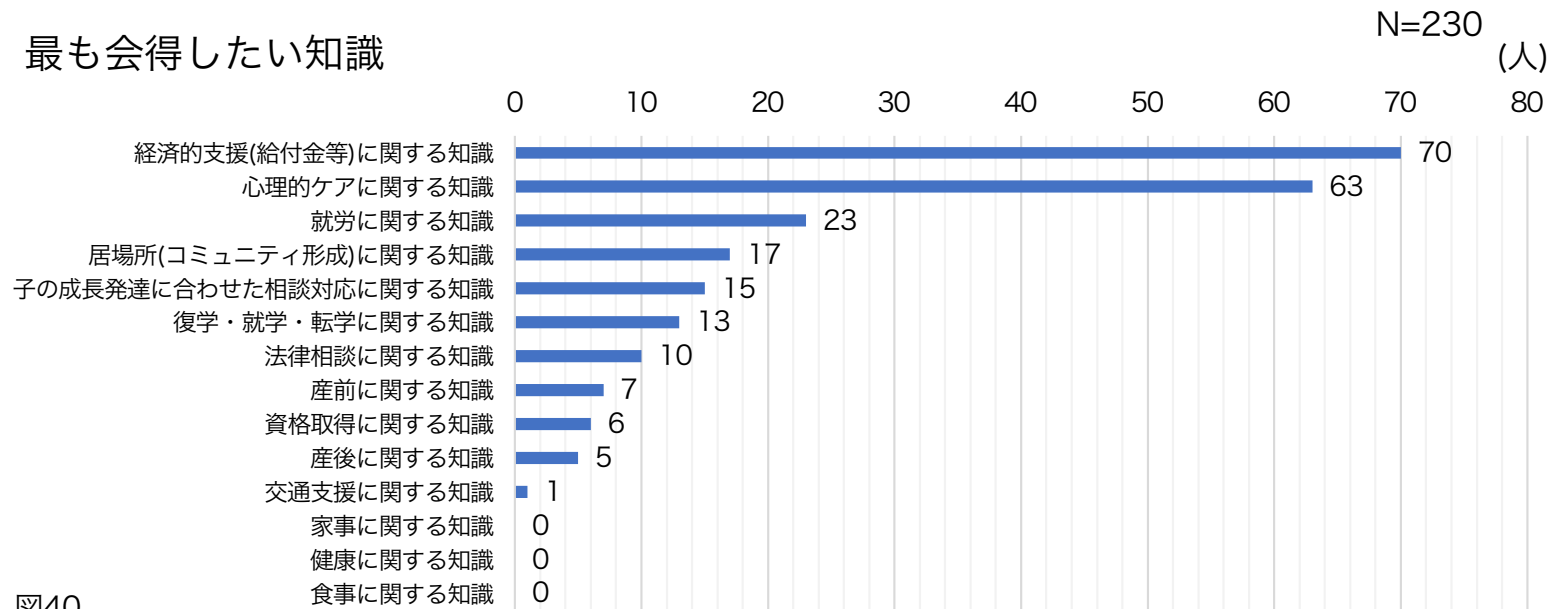


図40

最も会得した知識に関しては経済的支援に関する知識と心理的ケアに関する知識が圧倒的に多く、「支援する上で必要なこと」と相関がみられる。

上記以外で会得したい知識(複数回答可)

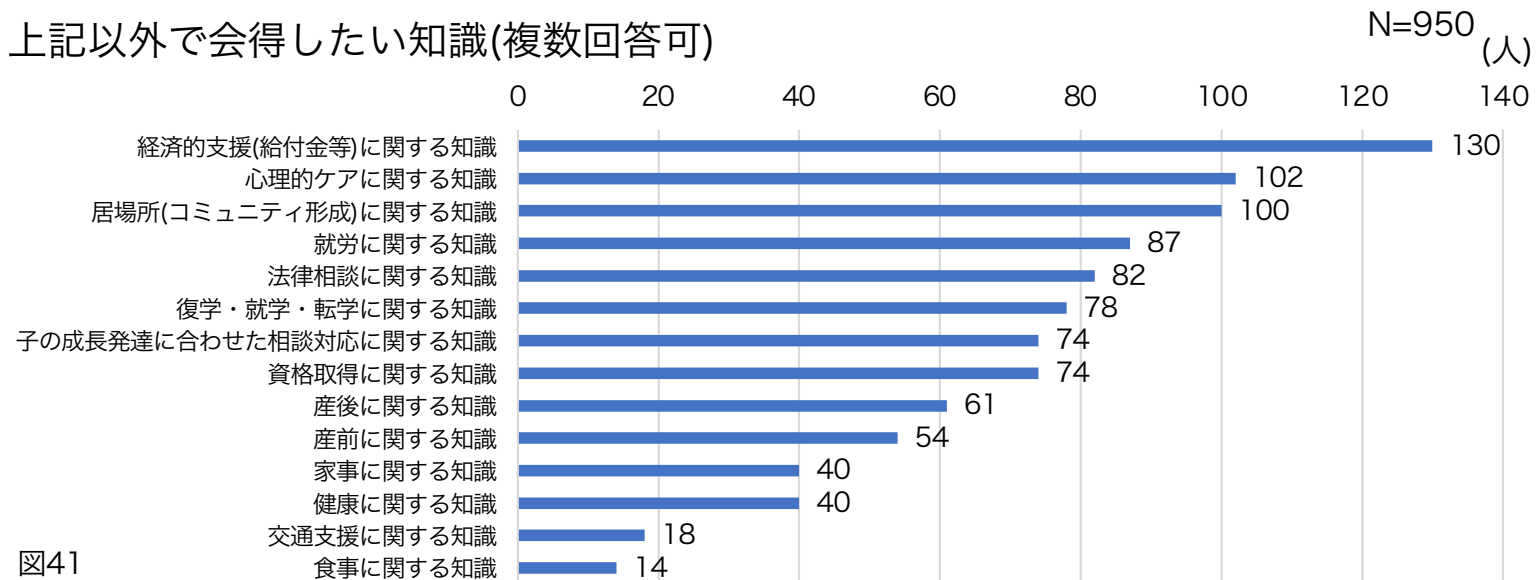


図41

図40と図41を合わせると、「経済的支援」、「心理的ケア」、「居場所」に関する知識の順で回答数が多かった。

若年妊産婦支援者養成講座への関心

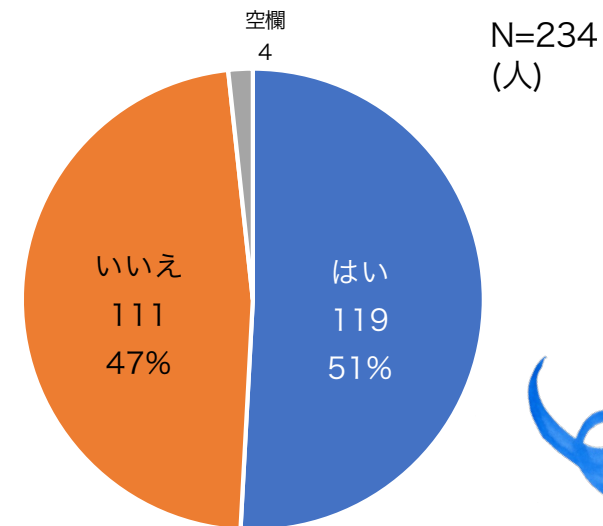


図42

「はい」と答えた方の現職

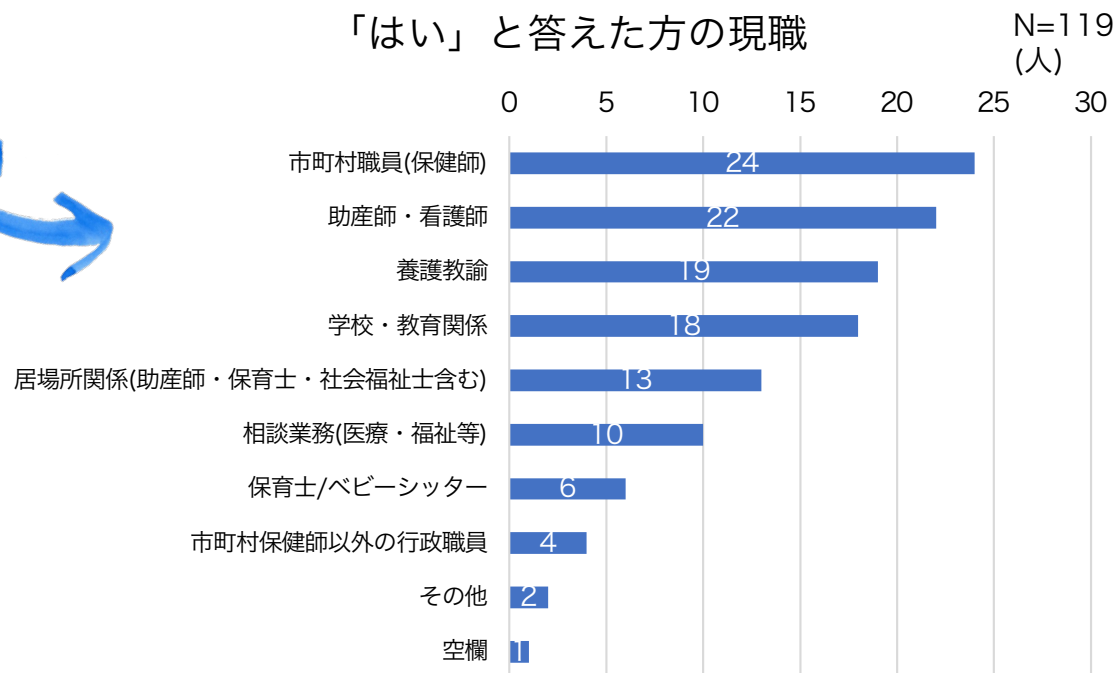


図43

今後、若年妊産婦支援者養成講座を実施するとしたらお知らせを希望するか、については、100人以上の方が関心がある結果となった。回答数としては「市町村保健師」が最多であるが、図22の全回答者の現職の割合から見ると、「助産師・看護師」が最多で75%以上が講座への関心を示した。

調査報告まとめ

当事者アンケート・ヒアリング調査

- 妊娠前から家や学校に居心地の悪さを感じている方が多い。
- 就学や就労と子育ての両立に悩み、パートナーの状況によっても経済的側面に大きな違いがある。また、子の成長とともに就労や資格取得に意欲がみられる発言も聞かれた。
- 大人の言葉や態度に傷付き、産後1年を過ぎて育児を投げ出すこともあったが、その時の自分を後悔している。
- 子どもについては、可愛いとの発言が多く、愛着もみられる。
- 家族とは違った居場所を求める声がある。
- 行政については第一印象が重要で、一度不快な思いをすると、行政全体に「嫌」という印象がついてしまう。

想定支援者・支援者調査

- 学びたいこととしては専門外である経済的支援に関する知識が最も多く、当事者のニーズとも合致する。
- 支援に関心がある方は多いが、関わり方や信頼関係の構築に不安があり、まずは現状について知りたいという意見が多く、学ぶ場の提供が必要。
- 当事者のニーズを把握し支援できる支援者を育成することが重要。